

総力特集

北の核を封じ込めよ



六カ国期待

なか じま みれ ち
中嶋嶺雄
(国際教養大学学長)

中国側の本音は経済支援

協議にするな

さくら い
櫻井よしこ
(ジャーナリスト)



と金正日体制の維持にある

中国の怒りはジェスチャーにすぎない

中嶋 北朝鮮の核問題をめぐる、中国と北朝鮮に関する日本政府・外務省の見方は、根本的に誤っています。六カ国協議の復活を求める中国の発言や、中国の唐家璇國務委員がロシア、アメリカや北朝鮮を説得に飛び回るのを見て、日本は六カ国協議議長国の中国に根回しをすればよいと考えているようですが、大きな間違いです。

たしかに表面上、中国は北朝鮮の核実験を非難しました。しかし北朝鮮が追い詰められて崩壊し、最も困るのは隣国の中国です。したがって「何としても北朝鮮を守りたい」というのが、中国の本音であり、基本的スタンスだといえます。中国と北朝鮮の関係は朝鮮戦争以来、血で結ばれた「血誼」であり、つねに地下水脈ではつながっています。

唐家璇國務委員は今回、北朝鮮も訪問していますが、おそらく徹底的に北朝鮮を抑えるためでなく、「基本的に中国は北朝鮮の味方である」という立場を示したはずです。たとえれば、北朝鮮と中国の国境沿いを流れる鴨緑江という川がありますね。中国はこの鴨緑江に突如として鉄線を張り、北朝鮮との交通を遮断し、物資の往来を断ち切るかのように見えています。しかし鴨緑江は長いですから、わずかに数キロ鉄線を張ったところで、いくらでも行き来が可能です。北朝鮮に対

して厳しい姿勢をとるぞ、という中国のジェスチャーにすぎない。日本政府や外務省は、この点を理解していません。

櫻井 少なくとも中国には、金正日政権を現状維持しておくメリットがあります。現在、中国による「経済的な植民地化」が、金正日政権のもとで進んでいます。羅津という港の五十年間に及ぶ租借権や、北朝鮮最大規模の鉄鉱山である茂山の五十年間の採掘権、さらには中朝国境地帯にある亜鉛その他の鉱山は、すべて中国が独裁的採掘権を手に入れています。

金正日とはもはや中国の経済支援なくして暮らせないほど、中国に依存しています。いまの状況が続けば続くほど、北朝鮮の中国に対する依存度は高くなるので、北朝鮮全土をコントロール下に置きたい中国にとっては、経済支援は安い買い物です。

たとえ金正日でなく、代わりの人間が政権を握ったとしても、できるだけ北朝鮮が崩れないかたち、つまり韓国やアメリカの介入を許さない状態が続くことが、中国の実利に沿うものです。中嶋さんがおっしゃった鉄線がジェスチャーにすぎないという見方は、納得できます。

さらにいうと、中国の最終目標は、朝鮮半島全土に中国の影響力を及ぼすことではないでしょうか。そのためには、韓国の盧武鉉大統領も中国側に引きつけておく必要があります。いまの盧武鉉政権の親北ぶりは「狂乱政権」といって

いほどですが、韓国の狂乱は、中国にとっては大歓迎なので
す。

中国が北朝鮮に対して制裁のジュエスチャーをとったのは、
日本とアメリカがミサイル発射実験のときと同じ、もしくは
それ以上に強い結束で制裁決議を決めたことが圧力となった
のでしよう。韓国までが北朝鮮非難の姿勢を見せ、すぐに撤
回したとはいえ、一時的に太陽政策見直しの検討も表明しま
した。

前回のミサイル発射実験と今回の核実験では、国際社会に
与える衝撃度が異なります。核実験をした北朝鮮を擁護する
としたら、中国は国際的に孤立しかねません。そこで唐家璇
が急遽訪朝して、ポーズだけでも北朝鮮を非難、説得してみ
せ、国際社会に中国の影響力を誇示したのでしよう。

北朝鮮がいちばん好きな国はアメリカ

中嶋 そうした流れのなかでさらに考えるべきは「北朝鮮
がつねに中国のいうことを聞くか」ですが、必ずしもそうで
はないということです。

冷戦時代の中ソ対立から、北朝鮮は長いあいだ中国とソ
連、中国とロシアを天秤にかけてきました。本当はどちらの
国も嫌いで、わけても嫌いなのは中国です。これは朝鮮戦争
で中国の支援を受けたことで、中国に目下のように扱われる

とはならない。なかでも中国の支那策によって、北朝鮮が中国
の朝貢国のようになるのを何とか避けたい意識があります。
一方の中国は、南北朝鮮を自分の目下のように扱いたいとい
う意識がある。そんな感情が、つねに二重になっているので
す。

ただし基本的には、中国も北朝鮮も同じ共産主義体制で
す。韓国の盧武鉉政権にしても、共産主義体制に迎合するこ
ころが強いのですから、六カ国協議で北朝鮮を非難したとし
ても、あまり信用しないほうがいい。そのあたりを日本は見抜
き、北朝鮮への対応を考えていく必要があります。

櫻井 十月十九日の平壤放送で、面白いニュース映像を見
ました。お馴染みの女性アナウンサーが「偉大なる指導者、
金正日將軍様は本日、音楽会を楽しんでいます」という。こ
のニュースの裏に、政治的なメッセージがあることは確かだ
です。あのとき、もしかしたら唐家璇國務委員の訪朝で二回目

ことが大きいでしょう。

櫻井 私が複数の脱北者から聞いた話では、北朝鮮の国民
がいちばん好きな国は、驚くことに、アメリカだそうです。
一方、中国は「完全に敵だ」というのです。ちなみに日本は
「まあ評価できる」。理由は、流通している製品のなかで日本
製品がいちばん素晴らしいからです。

中嶋 そう考えると、今回の唐家璇訪朝後も、北朝鮮は中
国のいうことを聞かないかもしれない。そもそも核実験を行
なったこと自体、中国に背いたことになりました。

では中国が、いうことを聞かない北朝鮮を崩壊に至らせよ
うとするかというところ、櫻井さんのいった事情もあってそうは
ならない。複雑なところですが、北朝鮮と中国の関係はこの
二重構造で見ることがあります。

私は一度だけ、北朝鮮に行ったことがあるんです。一九九
〇年に日本国際政治学会の東アジア分科会の訪朝団長とし
て、平壤に一週間滞在しました。このとき、チュチェ思想を
生み出し、最高人民会議の議長や金日成総合大学の校長を十
五年務め、先年韓国へ亡命した黄長澤氏と話をしたのです
が、彼は「中国もソ連も両方嫌だが、どちらかといえば北京
の大国主義が嫌いだ」といっていました。これが北朝鮮の認
識と見ていいでしょう。

ここから、さまざまなことが見えてきます。まず、韓国の
太陽政策そのものも、北朝鮮にとってそれほどありがたいこ
の核実験はない方向に進み、「將軍様はこんなに平和を好ん
でいる」というアピールだったのかもしれない、という気が
したのです。

失敗に終わった今年七月のミサイル発射実験も、一回目の
核実験も、金正日にとっては完全な失策です。次は絶対に成
功しないと、彼の威信は粉々に砕けてしまう。しかし一度失
敗したということは、次に成功する保証はどこにもありませ
ん。その証拠にテポドン2の失敗後、ミサイルの発射実験は
ありません。これは何らかの理由で、成功させる技術がない
と断じてよいのではないのでしょうか。同様の疑いが核実験に
もあって、今回の一件は金正日が権力の座を滑り落ちるきつ
かけになるかもしれない。

そこで中国が懐柔策を出して、「中国は、本当は北朝鮮を
擁護しているから安心して六カ国協議の場に復帰せよ」とい
えば案外、ただちに復帰はしなくとも、何らかの交渉には応

グリーンエア®は、
最新鋭工学の最新鋭集塵。
人に自然にやさしい
空気づくりのために。

エアから、エコ。 Green Air

省エネルギー・コンサルテーションから
運用・メンテナンスまで。
新しい空気環境を
ワンストップ・ソリューションで実現します。

www.tte-net.co.jp

じてくるかもしれません。そのとき日本やアメリカは、どのように対応すべきか。この時点で揺らがないで原則を貫くことが重要だ。

北朝鮮への経済制裁は効いている

中嶋 北朝鮮の内部については、私はもう少し違ったアングルをもって見ます。これまで「金日成リ金正日体制は崩れる」といわれながら、現在に至るまで政権は崩壊していません。私自身、北朝鮮を訪れたあとの印象記で書きましたが、天安門事件を受けて当時の日本のマスコミは「まもなく崩れるのではないか」と書いていました。それから十五年以上たっているのに、北朝鮮の体制は続いている。この秘密は何かということ、一度考えてみなければならぬと思います。

今回の核実験も、北朝鮮内部では失敗とは伝えられず、大成功と報じられているのではないのでしょうか。ミサイル実験にせよ核実験にせよ、国際社会に対してある種の恐喝を行なっていることが、国内における金正日の名声をますます高めている構図があるように思います。

核実験で対外的な恐喝を行なう一方、金正日を「世界の帝国主義の包圍網と戦う英雄」と思わせたい、そんな部分がある。これが独裁国家の恐ろしさで、一五万人のマスゲームのエクスタシーに繋がるような、私たちとはまったく異なる価

その後、アメリカはもつと本腰を入れて、世界中の銀行に北朝鮮との取引口座を凍結するように求めています。北朝鮮の膨大な預金をもつ中国銀行も、引き出しが禁じられました。北朝鮮への経済制裁は、間違いなく効いているのです。

また昨年十月十四日、医薬品製造会社「エムジー製薬」(兵庫県芦屋市)の社長と、システム会社「メディア・コマース・リポリューション」(東京都豊島区)の社長が逮捕されました。この二人はともに、科協(在日本朝鮮人科学技術協会)の副会長でした。科協は日本の科学技術情報や、施設や設備に必要な部品を北朝鮮に輸出する役目を果たしていました。その科協にも家宅捜索が入り、関連書類やコンピュータまですべて押収されたのです。

その結果、朝鮮総聯は本部に家宅捜索が入ったかのような衝撃を受けました。押収されたコンピュータの情報から、関係者が全員マークされるようになったからです。四六時中、

監視のなかで彼らは生きています。それは毛沢東の文革時代における中国の、別バージョンといえるかもしれません。

核実験に対する非難や制裁についても、彼らはまったく動じていないとも考えられます。そう考えると六カ国協議や中国の説得で北朝鮮が核実験やミサイル実験を中止することはないでしょう。あるいは失敗するかもしれませんが、国内的には十分隠蔽が可能です。

櫻井 たしかに金正日が現状を国民にどう伝えているかについては、想像の及ばないところがあります。十月十四日の『産経新聞』に黒田勝弘さん(産経新聞ソウル支局長)が書いていたのですが、私たちは「金正日が孤立した」と思っているけれど、金正日に見れば、核実験を一回行なっただけで国際社会が注目してくれたのだから、「世界が北朝鮮を中心に回っている!」「核保有の威力はこんなにすごいのだ!」と考えていて不思議ではありません。

ただし、昨年九月以来の、アメリカによる厳しい金融制裁措置に音を立てて、北朝鮮側がこの夏以来、マカオの中国系銀行であるバンコ・デルタ・アジアの口座凍結を解除してほしい、とヒル國務次官補に訴えてきたことは事実です。この銀行にある北朝鮮の預金残高は約二七億円といわれました。二七億円とは一国家にとっては吹けば飛ぶような額です。そのお金をこたわるほどに、北朝鮮の財政は逼迫しているのです。

公安が監視を行ない、科学技術や核技術に関する情報や部品を送れない状況に置かれました。それがミサイル発射実験や核実験の失敗の遠因になったとすら考えられます。希望的観測かもしれませんが、金正日はいま、そうとうに追い詰められているのではないのでしょうか。

中嶋 私も、そう期待しています。ただ平壤に行ったときに驚いたのは、科学技術への高い意欲でした。日本の情報や文物を一生懸命集め、北朝鮮の国立図書館では、日本の科学技術系統の雑誌がぎっしり並んでいた。国立大学の工学部冶金工学科の紀要といった専門的なものでありました。

図書館で勉強している人を見ると、ソニーの最先端技術を使って、英語のリスニングを徹底的にやっている。当時私が勤めていた東京外国語大学にも、そんな設備はありませんでした。「意外にこの国は侮れないな」と思ったものです。そうした科学技術の一つの結晶が核技術です。核開発に成功す

新現代社談講

勝負脳の鍛え方

林成之

定価770円(税別)
ISBN 4-06-1-93861-4

スポーツで、仕事で、勉強で、あなたが今まで負けていたのは脳の使い方が悪かったからだ。人間の脳の仕組みを知り「勝負脳」を鍛えて人生を変えよう。脳外科の第一人者が贈る処方箋!

「普通がいい」という病

泉谷閑示

定価777円(税別)
ISBN 4-06-1-93862-2

頭と心と体のバランスを取りもどすための10講。いつの間にか「〇〇しなくちゃいけないんだ」という思い込みにとらわれていませんか。「常識」を疑い自分らしく生きるヒントを精神科医が示す。

講談社

るためなら、すべてを犠牲にしてもよいという雰囲気がある国にはあります。平壤を目を皿のようにして見て回って気づいたのは、彼らが意外にしたたかだ、ということ。地下鉄も立派で、子どもが飢えていないかと、一週間滞在して郊外も見て回ったのですが、そんな感じはありませんでした。

だからこそ、経済制裁は徹底的に行なうべきでしょう。先ほどのソニー製品にしても、おそらく朝鮮総聯など日本の組織が介在しています。その意味で日本からの送金ルートが断たれるのは、彼らにとって大きな打撃です。

朝鮮半島の半分は中国の手に落ちた

櫻井 話は変わりますが、『国民新聞』に書かれていた、一九七二年の日中国交回復の際、日本に秘密工作員を送ることを中国共産党の綱領に定めたという資料があります。あの資料は本物だと思われませんか。また内容についてはいかがですか。

中嶋 はい。おそらくその方針はいつも基本的に変わっていません。中国共産党には対外宣伝部があり、また政府に公安部があつて、あらゆる秘密工作活動を行なっている。留学生の組織にはエージェントを入れ、大使館にも工作員がいて日本の政治家の弱点を探るなどしています。政治家へのハニ

現するのではないのでしょうか。

中嶋 問題は、いまの中国に北朝鮮を抱えるだけの余裕があるかどうかです。何よりも中国自身が、国内に深刻な問題をいっばい抱えている。

櫻井 中国は今年の共産党大会で「調和社会構築」を打ち出し、農民に富を分配することを宣言しました。しかし中国共産党は、農民無視の政策を何十年も続けてきた政権です。必要とあらば、国内の貧窮極まる農民に与えるぶんを減らして、北朝鮮対策に振り分けることなどはいとも容易なことではないのでしょうか。

中嶋 たしかに北朝鮮の延命を第一優先とすれば、それもあるかもしれません。ただ中国の王朝が崩れるときは、決まって農民反乱が原因なのです。いま中国国内における格差は、日本の比ではありません。社会不安は大変なもので、共産党に対する国民の信頼は地に落ちていきます。環境破壊もす

ートラップ（女性を使った罠）に限らず、日本において工作活動は日常茶飯事です。

櫻井 中国はそうやって、日本を丸々利用して勢力を広げようとしているわけですね。

いま中嶋さんに質問したのは、中国が朝鮮半島に対して同じ工作をしていると思うからです。巧妙に実質的支配を広げた結果、南北朝鮮の半分は中国の手に落ちたのではないかと、という気さえします。日本に関しても、いま東シナ海があたかも中国領のようになっていて、ことを考えると、たとえ金正日が追い詰められ、北朝鮮の体制が変わろうとも、中国にとって大した変化ではないかもしれませぬ。どのみち、北朝鮮は中国の掌の上にあるというのが中国人の認識ではないのでしょうか。

中嶋 そこは判断の難しいところで、中国は必ずしもそう見ていないと思います。だからこそ唐家璇國務委員も、あれだけ奔走せざるをえなかったのでしょう。

櫻井 私は、中国は金正日の生殺与奪の力をすでに握ったという気がします。金正日がいうことを聞かなければ、彼を孤立させることも可能かもしれない。金正日にいっさいの資金を渡さず、食料も輸出しないとすれば、国民や軍部は離れていきます。その後、中国が北朝鮮国民や軍部に食料や医薬品、エネルギーなど必要な物資を与えれば、たとえば軍部のなかには金正日を捨てて、中国と手を組もうと思う勢力も出

さまざま、成長経済は限界に達している。あらゆるところで、中国の統びが見えはじめています。

そんな中国にとって、北朝鮮はもはや最大の関心事ではない。中国は最近では一九九〇年代に二回、国連安保理で拒否権を発動しましたが、いずれも台湾問題に絡むもので、北朝鮮関連のものは一つもありません。ここから中国は北朝鮮問題について、それほど熱心でないことが分かります。北朝鮮問題に真剣だと思わせるのは、国際社会へのアピールになるので、中国にとっては好都合です。日本はそうした中国の狙いを見定めなければなりません。その意味で、今後の東アジア外交の帰趨は重要です。

安倍総理訪中は成功か失敗か

中嶋 北朝鮮はいま「弱者の恐喝」を行なっており、これ



自然より自然に、
あなたを包みたい。

人間はあくまでも自然の一部。その事実を大切に、新しい最適環境を創造していきたい。もっとナチュラルに、いつもあなたのそばに、ダイダンは。

Always With You.



—光と空気と水を生かす—

ダイダン

も困った問題ですが、より大局的に考えると、中国の脅威ははるかにすさまじい。中国の脅威をいかに封じ込めるかを、日本外交の根本として考えるべきです。

恐ろしいと思うのは、もし小泉政権時代、中国の要求に屈して靖国参拝をやめていたら、国際社会における日本のプレゼンスはなかったでしょう。靖国問題で日本側が一貫したからこそ、中国は十月八日の日中首脳会談で安倍総理を受け入れたのです。小泉さんが靖国問題で譲らず、八月十五日に参拝して中国を追い詰めたことが、安倍さんへのどれほど大きなプレゼントになったことか。

櫻井 私小泉さんが八月十五日に靖国神社に参拝したことで、彼の外交には八〇点をつけてもよいと思いました。

中嶋 もっと高くてもいいと思うな(笑)。

櫻井 あと一〇点は差し上げましょうか(笑)。おっしゃるように小泉さんは、安倍総理にこの上ない晴れ舞台を用意して去っていったと思うのです。

日中首脳会談をめぐっては、安倍総理が戦争責任にまつわる河野談話、村山談話を認めたことに多少の引掛かりを感じてはいます。安倍さんにはいまままでのように中国に押し込まれ、そのリアクションとして日本が妥協を重ねていく後ろ向きのサイクルから脱してほしいし、それが可能な状況に彼はいると思うのです。

中嶋 もし安倍総理が河野談話や村山談話を中国に対し事

協議に参加すること、たとえ失敗したにせよ、核実験を行なったあとの北朝鮮が参加することは、まったく次元が異なります。核兵器を道具に、日本やアメリカが押し込められる心配もあります。

仮に北朝鮮が六カ国協議に戻ってきたとして、喜べるかというところでもありません。かといって日本が北朝鮮を六カ国協議に戻すことに不熱心であれば、今度は日本が国際社会から責められるので、痛し痒しです。

日本としては、北朝鮮が六カ国協議に戻ってきたら「量致問題」を訴えつづけることが重要です。日本人の拉致が解決しないかぎり、今後も制裁は続けるという姿勢を貫くしかありません。

中嶋 まったく同感ですね。

櫻井 六カ国協議はこれまで、核とミサイルの論議が中心でした。そこで日本が拉致問題を訴え、中国が「それは本題

前に認めてから訪中したのだとしたら、安倍総理の失敗だったと思います。日本に帰ってから野党やマスコミがいろいろいうものだから、一見トーンダウンしたように見えるかもしれませんが、安倍さんは基本的に、A級戦犯の問題でも歴史認識の問題でも譲っていません。今回の首脳会談は、成功とってよいのではないのでしょうか。『人民日報』は訪中の当日、安倍総理の略歴を載せて紹介し、翌日は一面カラーで大々的に首脳会談を好意的に扱っていた。これは前代未聞のことで、胡錦濤主席が安倍さんを持っていったのです。

安倍さんを擁護するならば、彼は先述した中国内政の混乱や江沢民と胡錦濤の権力争いなど、中国の内情をつぶさに観察し、それを逆を利用して訪中したと見ることもできる。さらに今回の首脳会談では、いままでもなら外務省のチャイナスクールが、事前に共同プレス発表の内容を中国に見せてお伺いを立てていたところを、今回はいっさい見せなかった。これは高く評価すべきでしょう。日本が国策を担保するために、このように揺るぎない外交を展開しなければなりません。

攻めどころは「人権」

櫻井 その意味で、日本は六カ国協議についても、もう一度考える必要があります。核をもたなかった北朝鮮が六カ国

ではない」といったとすれば、「人権」を主張すればよい。中国は異論を唱えようと、自国の人権無視の問題に飛び火しかねません。

中嶋 ウイグル族への弾圧は、本当に気の毒なことになっていますね。チベットへの弾圧も同様です。

櫻井 中国ではずつと、事実上のエスニック・クレンジング(民族浄化)が行なわれてきました。現在もそれが続いています。したがって日本は「拉致は日本の北朝鮮政策の根幹である」といい、水面下で「あなたの国の人権はどうなっているのですか」というぐらいの脅しは最低限行なうべきです。法輪功へのすさまじい迫害、農村と都市の格差など、「人権」に関してはいくらでも攻めどころがあるので。中嶋 しかも日本人拉致の問題は、本来なら人権以前の話で、あつてはならないことです。日本はそのことを国際社会に訴えつづければなりません。



ニュースは、昼つくられる。

紙面は小さい。
情熱は大きい。

夕方に、真実を。
夕刊7日

Voice 12

21世紀の新しい日本を創る提言誌

昭和53年2月10日第三種郵便物認可 平成18年12月1日発行(毎月1回1日発行)通巻348号

ボイス

定価620円

総力
特集

北の核を封じ込めよ

自立した国家の核武装論議 | 中川昭一 |

拉致問題を戦う覚悟 | 中山恭子 |

金融制裁で白旗を揚げさせる | 小池百合子 | 他

飲酒運転は「自己愛の病理」だ | 斎藤 環 |

